

青森県立特別支援学校の教室不足の解消に向けた集中取組計画

令和4年3月

青森県教育委員会

《目 次》

1	県立特別支援学校の現状.....	1
2	幼児児童生徒数の今後の見込み.....	3
3	今後の取組の基本的な考え方.....	4
4	集中取組計画ロードマップ.....	4
別紙 1	集中取組期間における学校別教室不足の状況.....	5
別紙 2	集中取組計画ロードマップ.....	6

1 県立特別支援学校の現状

- (1) 本県においては、これまで、在籍児童生徒数が増加している県立特別支援学校について、校舎の増築や統廃合により閉校となった高等学校の既存施設を利活用すること等により、教室不足の解消に努めてきた。

(参考) 教室不足解消に係る主な取組内容

年 度	学校名	取組内容
平成18年度	八戸第二養護学校	校舎増築
平成21年度	七戸養護学校	校舎増築
平成28年度	青森第二養護学校	校舎増築
平成29年度	八戸第二養護学校	旧八戸南高校校舎を利活用し、高等部を分離移設して八戸高等支援学校を開校。
令和元年度	弘前第一養護学校	旧岩木高校校舎を利活用し、高等部を移転。

- (2) しかしながら、依然として教室不足の状況は続いており、令和3年度においては、県立特別支援学校20校のうち6校において、学習スペース確保のため、特別教室の普通教室への転用や一つの教室を簡易な間仕切り又は間仕切りなしで複数の学級が使用するなどの対応を行っている教室が28室認められた。

これらの学校では、例えば、被服実習室を普通教室に転用している場合、ミシンなどの実習器具を別の保管場所から運搬する必要が生じたり、また、一つの教室を複数の学級がカーテンなどで間仕切りして使用している場合、隣の教室の音が聞こえるなどの教育上の支障が報告されている。

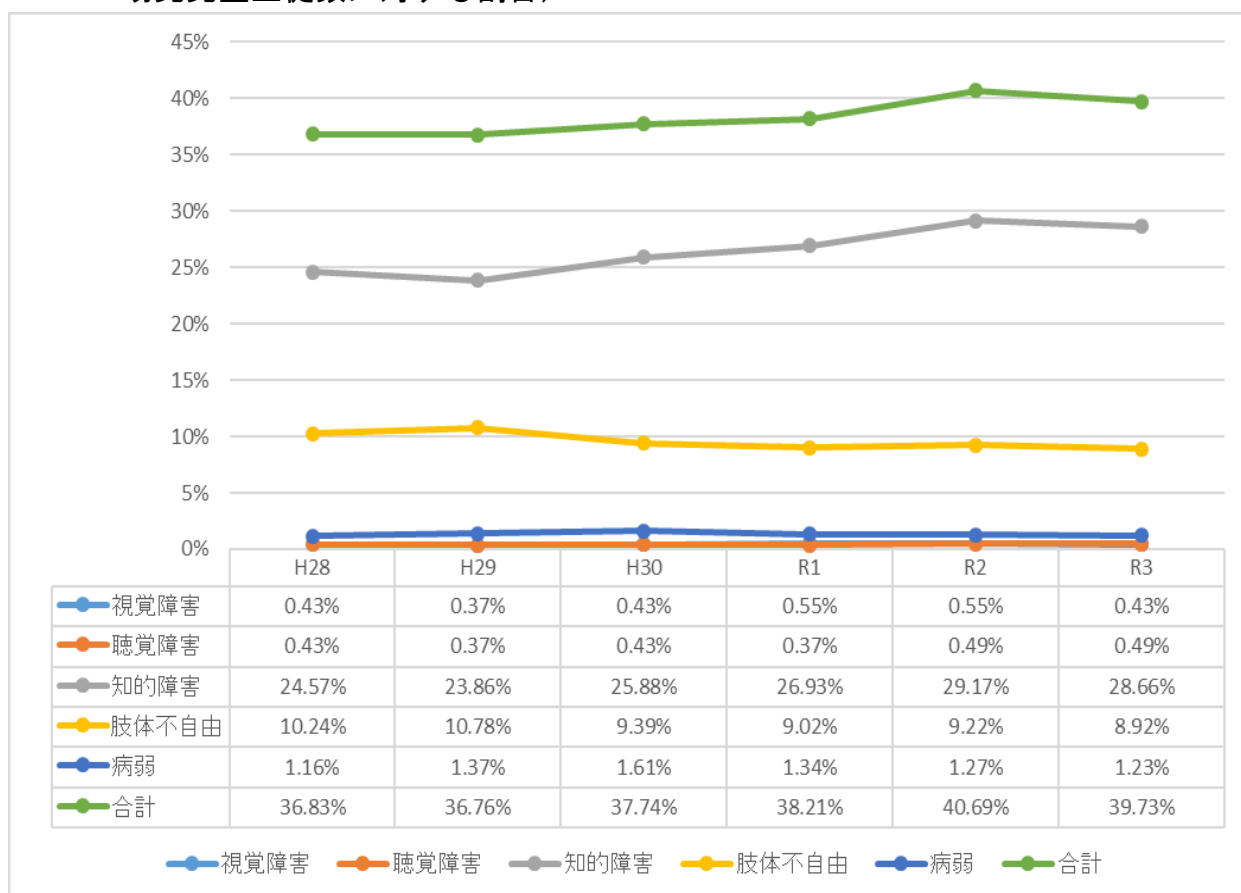
(参考) 集中取組期間における学校別教室不足の状況

別紙1のとおり

(3) 特別支援学校における学級編制基準は、小中学部では単一障害学級で6人、重複障害学級（二つ以上の障害を有する児童生徒で編制されている学級）で3人となっており、また、高等部では単一障害学級で8人、重複障害学級で3人となっている。

近年、知的障害のある児童生徒を対象とする県立特別支援学校において、重複障害の児童生徒の占める割合が高くなっており、当該学級編制基準の下、学級数が増加することとなり、このことが教室不足の主な要因と考えられる。

(参考) 県立特別支援学校における重複障害の幼児児童生徒が占める割合の推移（全幼児児童生徒数に対する割合）

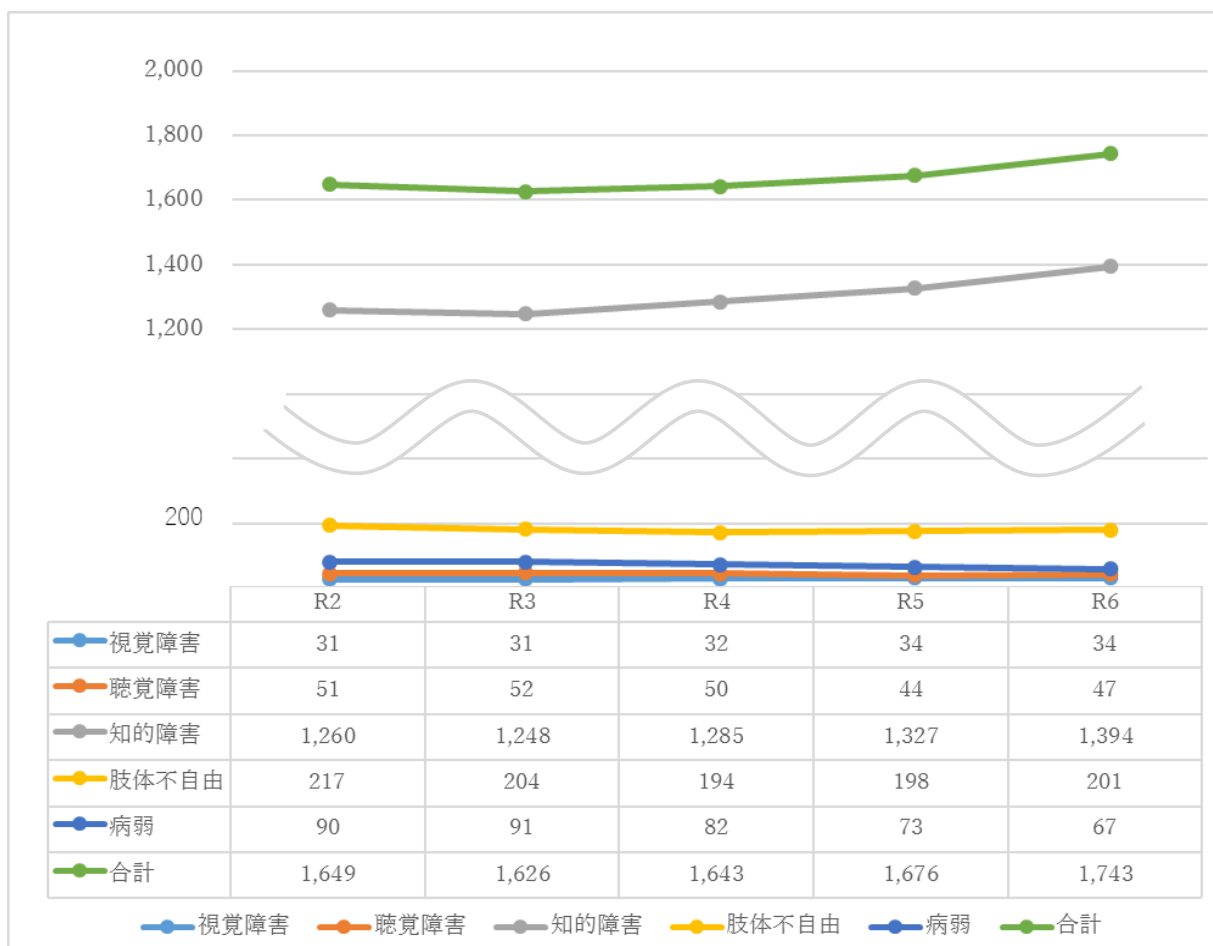


2 幼児児童生徒数の今後の見込み

県立特別支援学校において、令和6年度までに受け入れが想定される幼児児童生徒数は、下記グラフのとおりであり、引き続き、知的障害のある児童生徒を対象とする県立特別支援学校で児童生徒数の増加が見込まれている。

(参考) 幼児児童生徒数の将来推計グラフ

(単位：人)



3 今後の取組の基本的な考え方

(1) 閉校校舎の利活用

黒石養護学校については、施設の老朽化対策が必要であるものの、敷地が狭隘であり、現地での対応が困難であることから、統廃合により令和3年度末に閉校となる黒石商業高校の施設を利活用し移転する際に、教室不足を解消する。

(2) 既存施設の改修等

黒石養護学校以外の学校において、既存施設の改修等による教室不足の解消が可能であると考えられる学校については、普通教室への転用や室の間取りの変更等の改修を行うことで教室不足を解消する。

(3) 増築

既存施設の改修等による教室不足の解消が困難であると考えられる学校については、増築することで教室不足を解消する。

4 集中取組計画ロードマップ

上記の取組の基本的な考え方を踏まえ、令和3年度において教室不足が生じている学校及び今後教室不足が見込まれる学校について、別紙2のとおり令和6年度までの間に集中的に教室不足の解消に取り組む。

なお、令和6年度までに教室不足の状況に変更が生じた場合は、適宜計画の見直しを行うこととする。

別紙 1 集中取組期間における学校別教室不足の状況

障害区分	学校名	教室不足数								取組内容
		年度当初(※1)				取組内容の実施後(※2)				
		R3	R4 見込み	R5 見込み	R6 見込み	R3	R4 見込み	R5 見込み	R6 見込み	
視覚障害	県立盲学校									
	八戸盲学校		1							既存施設の改修
聴覚障害	青森聾学校									
	弘前聾学校									
	八戸聾学校									
知的障害	青森第二養護学校									
	弘前第一養護学校 小中学部									
	弘前第一養護学校 高等部									
	八戸第二養護学校		1	5	9					転用・既存施設の改修
	黒石養護学校	2	2	4	6	2	2	4		閉校校舎の利活用
	青森第二高等養護学校									
	八戸高等支援学校		1	2						転用
肢体不自由	青森第一養護学校									
	弘前第二養護学校	3	3	4	2	3	1	2		転用・既存施設の改修
	八戸第一養護学校									
知肢併置	森田養護学校	5	5	7	6	5	5			既存施設の改修
	七戸養護学校	15	14	14	15	15	14	14		増築
	むつ養護学校	2	2	3	2	2	2	3		増築
	青森第一高等養護学校									
病弱	青森若葉養護学校	1	1	1	1	1				既存施設の改修
	浪岡養護学校									
計		28	30	40	41	28	24	23	0	

※1 令和3年5月1日現在の児童生徒数を基に推計した各年度当初における教室不足数

※2 年度当初の教室不足数に対し、取組内容欄による取組を行った後の教室不足数

別紙 2 集中取組計画ロードマップ

No	障害区分	学校名	取組内容	年次				教室不足解消 予定時期	備考
				R 3	R 4	R 5	R 6		
1	視覚	八戸盲学校	既存施設の改修		工事			R 4 末	
2		八戸第二養護学校	転用・既存施設の改修		転用等	転用等	転用等	R 6 末	
3	知的	黒石養護学校	閉校校舎の利活用	基本計画	設計	及び	工事	R 6 末	令和 7 年度移転予定
4		八戸高等支援学校	転用		転用			R 5 末	
5	肢体 不自由	弘前第二養護学校	転用・既存施設の改修	調査	転用等			R 6 末	
6		森田養護学校	既存施設の改修	調査	設計	工事		R 5 末	
7	四肢 併置	七戸養護学校	増築	調査	基本計画	設計	工事	R 6 末	
8		むつ養護学校	増築	調査	基本計画	設計	工事	R 6 末	
9	病弱	青森若葉養護学校	既存施設の改修	設計	工事			R 4 末	

【教室不足の推計】

	R 3 年度末	R 4 年度末 見込み	R 5 年度末 見込み	R 6 年度末 見込み
教室不足数見込み	28	30	40	41
取組内容による対応後の 教室不足数	28	24	23	0